

# 第5学年国語科学習指導案

日時 平成16年9月10日(金)1校時

児童 男7名 女4名 計11名

指導者 川内美樹

## 1 単元名 心の通い合いを読み取ろう

教材名「わらぐつの中の神様」 杉みき子 作

## 2 単元について

第5学年の読むこと目標は「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。本単元では、登場人物の人柄や心の動きを読み取り、感想を深めることを主目標としている。本教材「わらぐつの中の神様」は、家族の温かい心の交流を巧みな文章構成を用いて描いた作品である。「わらぐつ」の見かけの悪さを気にする現代っ子の「マサエ」と昔語りの中で「わらぐつ」を仲立ちとして心の通い合いを語る「おばあちゃん」。情感豊かに語られるその話の主人公の「おみつさん」と「大工さん」が実は「おばあちゃん」と「おじいちゃん」であることに気づく中で、「マサエ」の物の価値についての考え方や「家族」との「心の通い合い」は、深まり広がっていく。二人の心の通い合いと「マサエ」の変容が、今-昔-今という展開をたどりながら、鮮やかに描き出されている。児童たちは、同世代の存在である「マサエ」の心の変容を共感的に読み取り、「おばあちゃん」の昔語りの世界での「おみつさん」と「大工さん」の人柄や二人の心の通い合いを素直に受け取ることができるであろう。このような登場人物の変容や心の通い合い、作品構成の効果などに目を向けて作品世界を味わうとともに、自分自身の心の通い合いへの考え方を振り返り、深めたり広げたりすることができる単元である。

児童は、第一単元「新しい友達」、第四単元「プラム・クリークの土手で」で物語教材を学習してきている。「新しい友達」では、登場人物の気持ちの変化を読み取り話し合うことや、素材（クロッカス）の果たす役割について学んできた。「プラム・クリークの土手で」では、同シリーズの作品を比べて読むことで主人公に対する考え方を広げたり深めたりすることや、テーマを決めて本を選び読書する体験をしてきている。読むことに関しては、叙述にもとづいて登場人物の心情をとらえることはできるが、いろいろな方向から多面的に考えたり、自分の考えを相手と比べてさらに深めたりするところまでは至っていない児童が多い。読書の傾向としては、自分の気に入ったシリーズ物や科学読み物などを読むことが多いが、中には自分の興味のあるテーマの本を探して読んでいる児童もいる。しかし、全体的に見ると、幅広い読書活動をしているとは言い難い。

指導にあたっては、作品の構成の工夫や登場人物の言動から想像される人柄や考え方、心の通い合いの仲立ちになっている物は何か考える活動を通して、おばあちゃんの話やマサエの物の見方や考え方の変化に気づかせていきたい。本時は、同じ作者の作品を読み比べ、それぞれの登場人物が人間の本質に触れて変容していく場面を見つけ、そのきっかけとなったことは何かを考えさせていきたい。その活動を通して、教材の主題である物の価値や働くことの意味についてより深く考えさせることを「豊かに考える」ことととらえる。また、教材を始めとした作品の登場人物が外見へのこだわりや偏見といったものから開放され、真実を見極めることができた理由について話し合うことによって、考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てていきたい。そして、マサエとともに児童にとっても物の見方について考えるきっかけとしていきたい。

## 3 単元の目標

登場人物が成長した理由について、進んで読み考えようとする。（関心意欲態度）

登場人物の人柄や場面・情景を、叙述に即して読むことができる。（読むことウ）

登場人物の成長について、考えを深めたり広めたりするために、作品を選んで読むことができる。

（読むことア）

自分の考えを整理し、体験や思ったことを効果的に書くことができる。（書くことア）

「現在-過去-現在」という物語の構成に気づき、その効果やおもしろさを味わう。（言語オ（ア））

4 指導計画（7時間扱い）

段階	学習活動		時間	評価規準				
				関心意欲態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
一次	見通しをもつ	「心の通い合いを読み取る」という単元のねらいを知り、全文を通読後、感想を交流し合う。杉みき子の他の作品を知る。	1	学習の見通しをつかみ、進んで作品を読もうとしている。	心に残った場面を中心に感想を話したり、聞き返したりすることができる。	心に残った場面を中心に感想を書くことができる。		新出漢字を読むことができる。
二次	読み深める	作品の構成を考えたが場面に分け、あらすじを書く。	1	作者はどんな構成の工夫をしているかという視点で作品を読もうとしている。		場面毎に分けて、あらすじを書くことができる。	初めと終わりでの主人公の変容を読み取ることができる。	構成の工夫や書かれ方の工夫に気づくことができる。
		登場人物の言動から、その人柄や考え方を探る。	1	登場人物の人柄や考え方について、自分の考えを持ちながら読もうとしている。			叙述をもとに、登場人物の心情を読み取ることができる。	
		心の通い合いを生み出した物や出来事は何かという視点で作品を読み深める。	1	登場人物の心を通い合わせた物について、読み調べようとしている。			登場人物の心を通い合わせた物は何か読み取ることができる。	
		杉みき子の作品をくわしく読む。	1	作品を比べながら、進んで読もうとしている。			登場人物の考えなどが変容したことを読み取ることができる。	
		マサエの変容の理由について、作品を読み比べることで考えを深める。	1 本時	作品を比べながら、進んで話し合おうとしている。	自分の考えを進んで話したり、友達の考えを聞いて比べたりすることができる。		複数の作品を読み比べ、マサエの変容の理由について、考えることができる。	
三次	ひろめる	読んだ本の中から、「心の通い合い」をテーマにして感想を書く。	1	登場人物に対する自分の気持ちを進んで書こうとしている。		登場人物について、心に残ったことなどを引用しながら、感想を書くことができる。		

5 本時の指導

(1) ねらい

作品を読み比べ、マサエの変容の理由について考え話し合うことができる。

(2) 本時の授業の仮説

国語科で次のような読書活動を行うならば、豊かに考える子どもが育つだろう。

仮説1 並行読書として登場人物の物の見方、考え方の変容が分かる作品の比べ読みを位置づけること。

仮説2 物の価値や生き方について考えることができるような作品を選定すること。

仮説3 登場人物の気持ちや考え方が変容した理由について発表し合い、考えを深める場を設定すること。

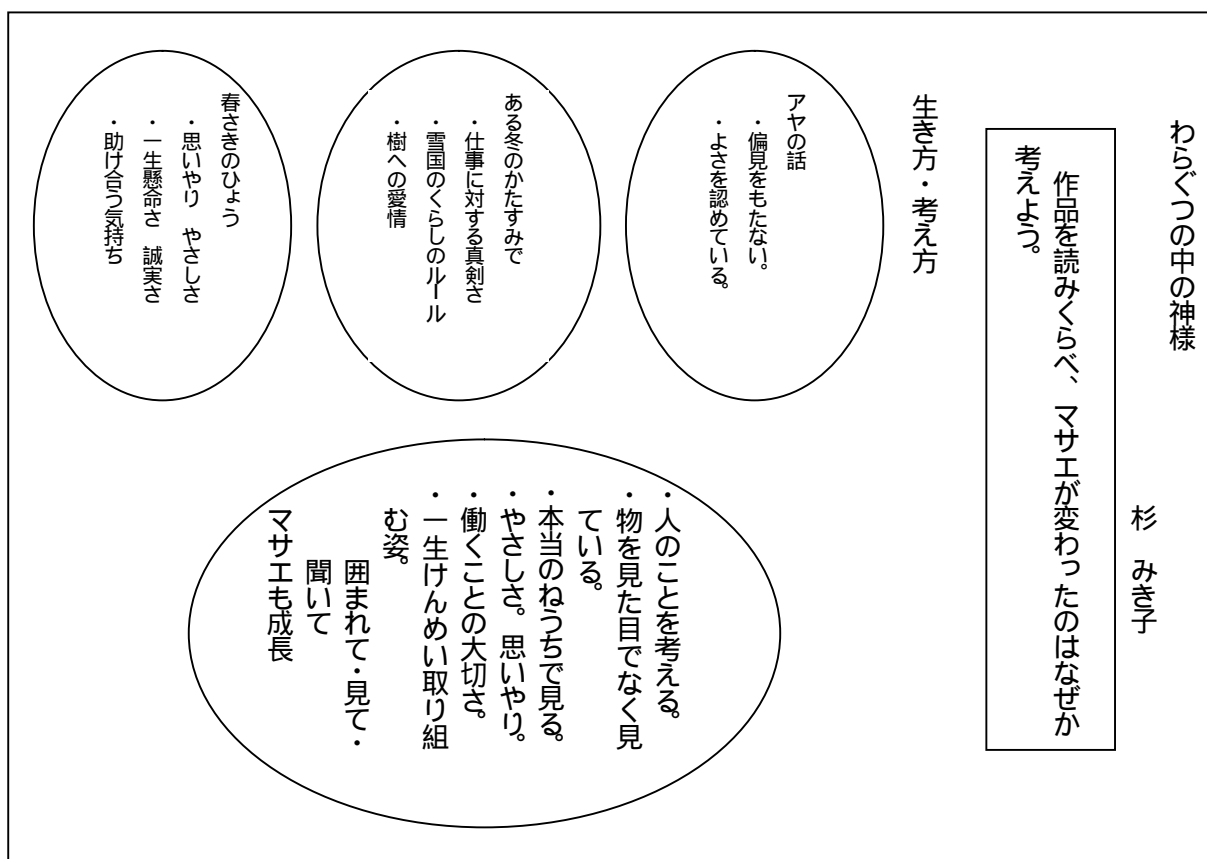
(3) 展開

段階	学習内容	支援と評価	準備
導入 5	1 前時の学習を想起する。 ・前時に読んだ作品を振り返る。 2 本時の課題を確認する。 ・マサエの気持ちが変わった理由を考えていくことを確認する。 作品を読み比べ、マサエが変わったのはなぜか考えよう。	登場人物が何かをきっかけに変容していることに気をつけながら読んできたことを確認する。 マサエの気持ちが変わったわけを大工さんの物の見方や考え方から探っていくことを確認する。	
展開 30	3 学習の見通しをもつ。 ・主教材と読書材から考えていくことを確認する。 4 自分の考えをもつ。 ・マサエの考え方が変わったわけについて、自分の考えを書く。 5 話し合う。 ・複数の読書材から、マサエの成長のもとになったものについて、考えを深める。 6 まとめる。 ・友達の意見や感想を聞いて考えたことを自分の言葉でまとめる。 まとめ例 マサエは、大工さんの仕事のよしあしは見かけでなく、使う人の身になって、心をこめて作ったかどうかが大変なのだという考え方にふれて、成長することができた。	登場人物の言動などから考えていくことを確認する。 教材文の「見かけで決まるもんじゃないし」「心をこめて作ったものには、神様が入っているのと同じなんだ。」などの言葉に着目させる。 「アヤの話」では、偏見をもたず友達として、少女のよさを認めようとしている主人公の気持ちに気づかせる。 「ある冬のかたすみで」では、主人公の気持ちの変化をもたらしたのは、見習いの少年の言葉から何を感じたからなのかを考えさせる。 「春さきのひょう」では、患者さんを思うお母さんの気持ちや誠実さに注目させる。 話し合いを通して、マサエの成長のもとになった生き方や考え方について、自分の考えをまとめさせる。 * マサエの考え方を換え、成長させた人間の本質(大切なもの)について考えることができたか。	ワークシート 読書材
終末 10	7 本時の学習を振り返る。 ・本時の学習の感想を発表し合う。 8 次時の予告をする。	話し合いによる自分の考えの深まりや変容に気づかせる。 次時はこれまでに読んだ本から選んで、感想を書くことを知らせる。	振り返りカード

(4) 評価

評価場面	具体的評価規準	十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する児童への支援
マサエの変容の理由について、自分の考えをまとめる場面 (発言・ワークシート)	読 マサエの考え方を換え、成長させた生き方や考え方を読み取ることができたか。	マサエの考え方を換え、成長させたわけについて、物の価値への考え方や労働の尊さであることを関連付けて読み取っている。	マサエの考え方を換え、成長させたわけについて、物の価値への考え方にあることを読み取っている。	大工さんとおみつさんの考え方が一致したのは、大工さんの会話文のどの部分なのかに着目させる。

(5) 板書計画



6 利用する読書材

- |             |      |          |
|-------------|------|----------|
| 『かくまきの歌』    | 杉みき子 | (童心社)    |
| 『小さな町の風景』   | 杉みき子 | (偕成社)    |
| 『小さな雪の町の物語』 | 杉みき子 | (童心社)    |
| 『そこにある木たち』  | 杉みき子 | (新日本出版社) |